

あしりべつ川利活用構想
提言書

平成27年（2015年）2月

あしりべつ川協議会

目次

はじめに～あしりべつ川利活用構想の提言の経緯.....	1
1章 清田区のまちづくりにおけるあしりべつ川の位置づけ	2
1. あしりべつ川（厚別川）の概要.....	2
2. きよたまちづくり区民会議での位置づけ	4
3. あしりべつ川協議会の立ち上げ.....	5
4. 清田区ふれあいプランでの位置づけ.....	6
5. あしりべつ川の現在の利用と課題	7
2章 あしりべつ川の基本方針.....	10
3章 あしりべつ川の将来イメージ（利活用と整備）	11
1. ゾーニング.....	11
2. ゾーンごとの将来イメージ	12
(1) 自然とふれあいゾーン（柳瀬橋～北野ふれあい橋～田の中橋）	12
(2) 憩いのゾーン（田の中橋～清田橋）	14
(3) 水とみどり、彩り（花）のゾーン（清田橋～上流部）	18
3. ネットワーク計画.....	20
(1) 水とみどり、彩り（花）のネットワーク	20
(2) 散策路のネットワーク	22
(3) 橋詰広場の設置	23
(4) 公園のネットワーク	24
4章 あしりべつ川の維持管理の考え方と体制.....	25
5章 参考資料.....	26
1. あしりべつ川の概要	26
(1) あしりべつ川（厚別川）の概要.....	26
(2) 「あしりべつ川」の呼び名の由来.....	27
(3) あしりべつ川と清田区の歴史	27
2. あしりべつ川の現況	28
3. 札幌市におけるあしりべつ川の位置づけ	31
(1) 札幌市みどりの基本計画（平成24年）での位置づけ	31
(2) 石狩川下流札幌圏域 河川整備計画（平成23年）での位置づけ	32
(3) 札幌市河川環境指針（平成21年）での位置づけ	33

はじめに～あしりべつ川利活用構想の提言の経緯

清田区では、区のシンボルである白旗山、あしりべつ川、平岡公園をはじめとする豊かな自然環境を保全・活用したうるおいあるまちづくりを進めている。

また、「きよたまちづくり区民会議」では、平成 25 年度より「豊かな自然環境を生かしたまちづくり」をテーマに検討を進めている。

その中でも、区内を縦断して流れ、清田区の発展を支え、区民に親しまれているあしりべつ川を活かして、まちづくりを進めることの必要性が強く打ち出され、本格的に「あしりべつ川を活かしたまちづくり」について議論が行われた。

そして、あしりべつ川の利活用をさらに検討するために、準備会を経て、平成 26 年度にあしりべつ川で活動している地域住民や団体を中心とした「あしりべつ川協議会」を組織して、本格的な議論を進め、このたび、「あしりべつ川利活用構想」を取りまとめた。

本構想は、地域で活動している団体が連携して提言を関係機関に示し、あしりべつ川の今後を前向きに考えていくための基礎資料として保存し、未来に伝達するものとする。

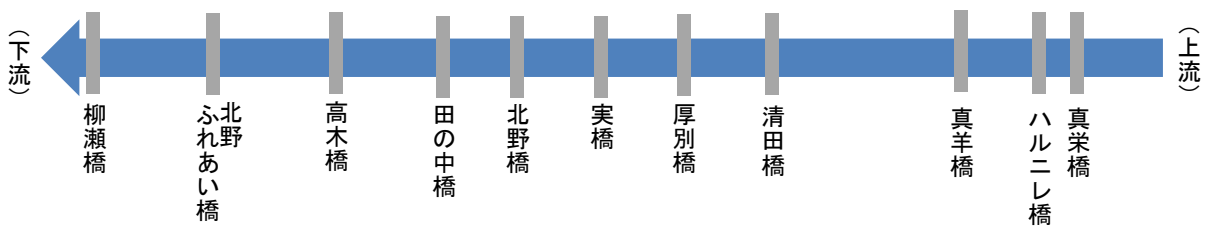
1章 清田区のまちづくりにおけるあしりべつ川の位置づけ

1. あしりべつ川（厚別川）の概要

札幌市を流れる一級河川で、豊平川最大の支流である厚別川は、空沼岳山頂付近を源流とし、清田区の中心部分を南北に縦断して、下流で豊平川に合流している。

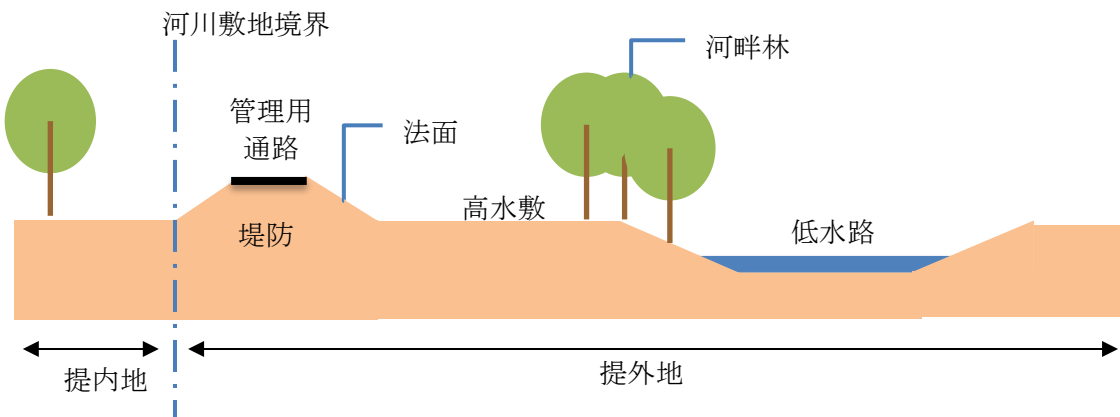
厚別川は、清田の周辺が昔「アシリベツ」と呼ばれていたことから、「あしりべつ川」として区民に親しまれている。

河川敷は緑地として整備され、散策やパークゴルフを楽しめる憩いの場となっているほか、こいのぼりが掲げられ、子ども達が自然にふれあう「あしりべつ川体験塾」が開催されるなど、広く地域に親しまれている。（詳細は「5章 参考資料」を参照。）

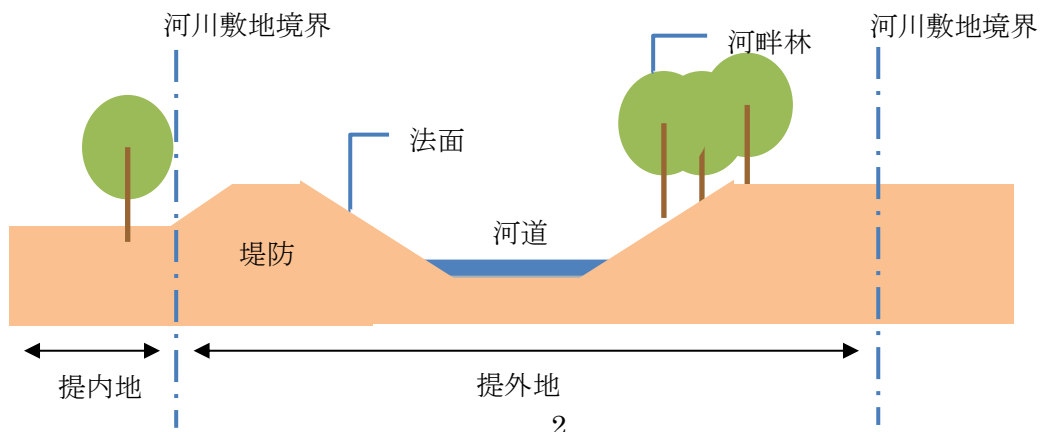


■あしりべつ川の断面

- ・複断面（清田橋より下流）



- ・単断面（清田橋より上流）



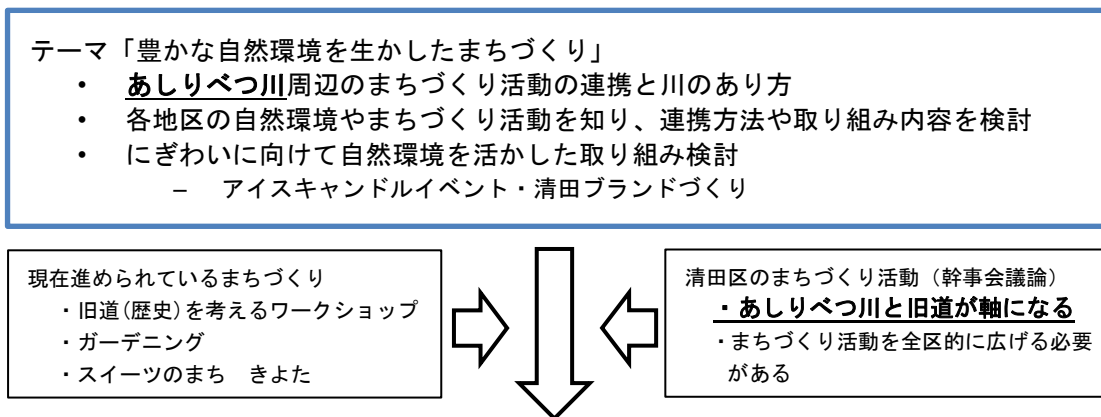
■各敷地の状況・管理者等

		下流部（清田橋より下流）		上流部	整備時の留意点
			（厚別橋から清田橋まで）	（清田橋より上流）	
低水路	状況	一部親水護岸あり （ふれあい橋のあたり）			原則として公園として使用できない 施設は造れない
	管理者	北海道		北海道	
高水敷	状況	幅員：平均約 20m 市が占有し、公園としている 主にパークゴルフ場として活用している	厚別橋から清田橋にかけて複断面から単断面に変わり幅員がせまくなる	幅員がほとんどない	高木の植栽や施設の設置など、水の流れを阻害する行為が制限される
	管理者	札幌市	北海道	北海道	
堤防敷	状況	管理用通路（園路兼用）は整備済		管理用通路は未整備	土地の掘削など、築堤を改造する行為が制限される
	管理者	北海道		北海道	
堤内地	状況	一部で市が占用し、公園としている サクラとリンゴの並木となっている	サクラの並木となっている	サクラの並木となっている	特に制限はない
	管理者	北海道及び札幌市（占用区域）	北海道（一部の樹木は札幌市）	北海道（一部の樹木は札幌市）	

2. きよたまちづくり区民会議での位置づけ

区民会議では、平成 25 年度から「豊かな自然環境を生かしたまちづくり」をテーマとして、4 つのまちづくり活動を検討してきた。「あしりべつ川」を活かしたまちづくりは、そのうちのひとつとして位置づけられ、優先的に取り組むべき課題とされた。

また、「あしりべつ川」と「旧国道 36 号」は、清田区全体のまちづくりの軸であることが確認された。

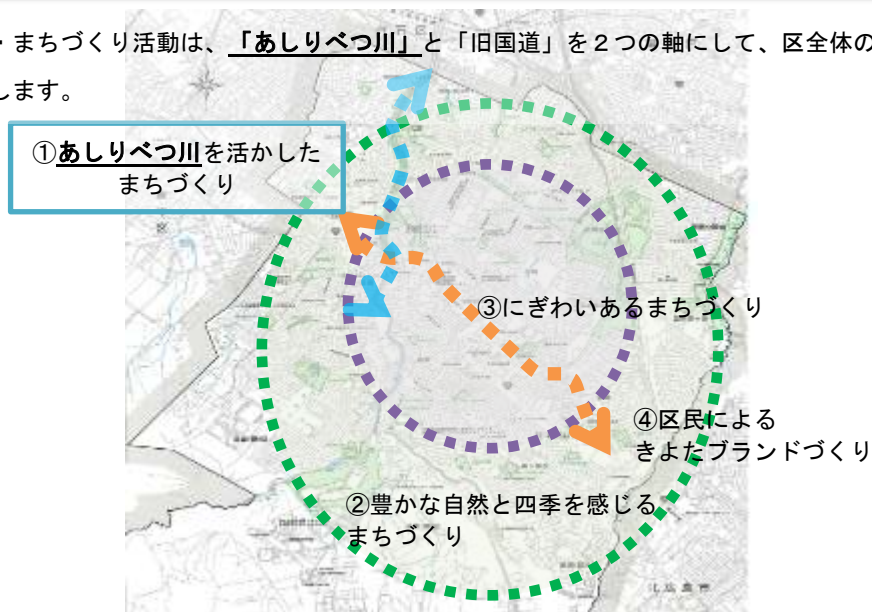


きよた・4つのまちづくり活動

- ① 「あしりべつ川」を活かしたまちづくり
- ② 豊かな自然と四季を感じるまちづくり
- ③ にぎわい(自然と歴史)を感じるまちづくり
- ④ 区民による「きよたブランド」づくり

きよた・まちづくり活動のイメージ

きよた・まちづくり活動は、「あしりべつ川」と「旧国道」を2つの軸にして、区全体の活動となるようにします。



3. あしりべつ川協議会の立ち上げ

区民会議の検討結果を受けて、あしりべつ川の利活用をさらに検討するため、平成 25 年度に「あしりべつ川協議会準備会」、平成 26 年度に「あしりべつ川協議会」を立ち上げた。

(1) あしりべつ川協議会準備会

「あしりべつ川協議会準備会」は 2 回開催した。

あしりべつ川をフィールドに活動しているさまざまな団体が、活動内容について情報交換し、利活用や維持管理のイメージを共有して、取り組みどうし連携を図っていくために、意見交換を行った。

	開催日時	主な検討テーマ
第 1 回あしりべつ川協議会準備会	平成 25 年 12 月 25 日	あしりべつ川の活用について
第 2 回あしりべつ川協議会準備会	平成 26 年 2 月 3 日	連携した取り組みについて

(2) あしりべつ川協議会

「あしりべつ川協議会」は 3 回開催した。

準備会で出た意見に基づいて、あしりべつ川の区間ごとの将来イメージや、活用ルールなど維持管理の考え方について、具体的に検討した。

	開催日時	主な検討テーマ
第 1 回あしりべつ川協議会	平成 26 年 7 月 11 日	あしりべつ川に対する自由意見
第 2 回あしりべつ川協議会	平成 26 年 11 月 18 日	あしりべつ川の現在の様子と利活用 ／維持管理の考え方と体制について
第 3 回あしりべつ川協議会	平成 27 年 2 月 5 日	「あしりべつ川利活用構想」提言書の 修正・取りまとめ

■あしりべつ川協議会メンバー

	団体	役職	氏名
1	NPO 法人あしりべつ川の会	副理事長	櫻 修二【座長】
2	きよたまちづくり区民会議 北野地区町内会連合会	幹事長 副会長	林 進一
3	清田町内会 清田地区町内会連合会	会長 理事	林 憲
4	北野第二団地自治会	花クラブ実行委員長	石田 達雄
5	清田区災害防止協力会	会長	平井 均
6	札幌国際大学 清田まるごと博物かん	スポーツ人間学部教授 事務局長	飯田 俊郎

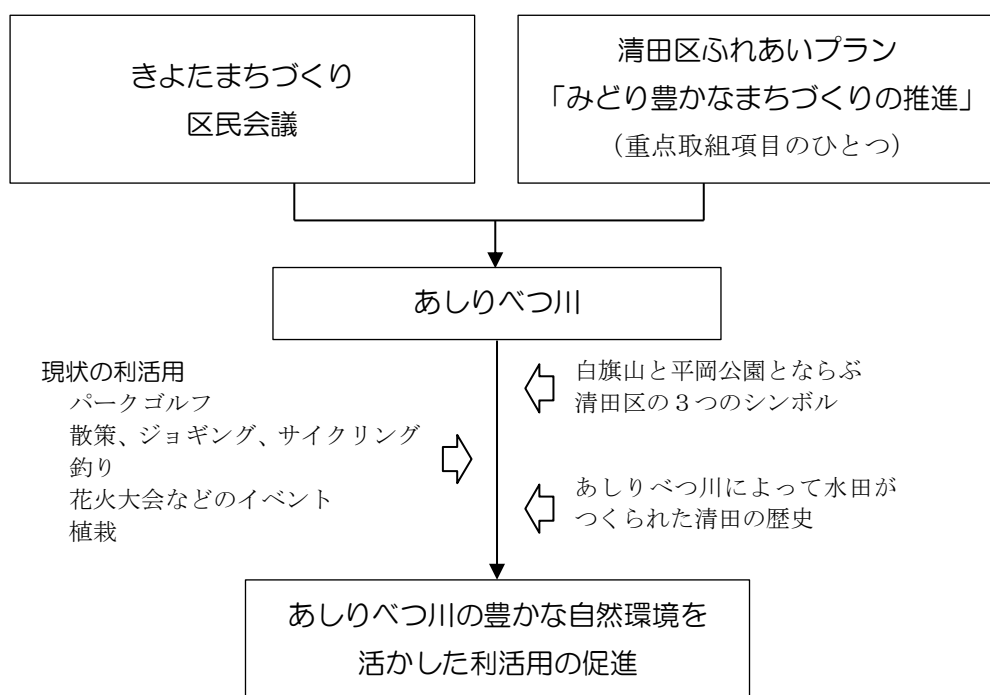
4. 清田区ふれあいプランでの位置づけ

清田区では、「清田区ふれあいプラン」に基づいてまちづくりを進めている。

「ふれあいプラン」の重点取組項目のひとつとして、「みどり豊かなまちづくりの推進」があげられている。

あしりべつ川の利活用の促進は、こうしたまちづくりの重要な取り組みである。

また、あしりべつ川は、水田がつくられたという清田区の歴史とも関わりがあり、清田区のシンボルのひとつでもある。(白旗山と平岡公園とならぶ清田区の3つのシンボルのひとつ。)



5. あしりべつ川の現在の利用と課題

(1) あしりべつ川の現在の利用と活動状況

あしりべつ川は、川の流が速いことから、川遊びをする区民の姿は少ないものの、高水敷があることから、パークゴルフのほか、散策やジョギング、サイクリング、釣りなどを楽しむ区民の姿が見られる。

●水辺の利用

北野ふれあい橋の親水空間では、毎年ヤマメの放流が行われている。

ヤマメの放流が行われていることもあり、釣りを楽しむ人の姿も見かける。

しかし、あしりべつ川は流が速いこともあり、水辺で遊ぶ姿などは見られない。

また、水際はヤナギが繁茂している。



ヤマメの放流

●高水敷の利用

あしりべつ川の高木橋から厚別橋までの区間の高水敷には、パークゴルフコースが配置され、区民を始めとして多くの人に利用されている。北野ふれあい橋付近で夏祭り（花火）などが行われている。



あしりべつ川の釣り人

●水辺での憩い

厚別橋と清田橋の間では、水辺が見えることから、区民の憩いの場になっている。

●散策・ジョギング・サイクリング・釣り

あしりべつ川の柳瀬橋から清田橋までの空間は、堤防の散策路（管理用通路）が整備されているため、散歩やジョギング、サイクリングなどに活用されている。

●植栽や花植え

あしりべつ川の沿川では、町内会など地域住民が中心となって堤防沿い（堤内地側）に樹木を植えたり、花を植えたりしている。

また、清田ライオンズクラブの寄贈により、多数のサクラの植樹が行われている。



散策路を自転車で走る人

また、下表に示すとおり、周辺では区民によってさまざまなイベントが行われているほか、維持管理も行われている。

■あしりべつ川の利活用カレンダー

月	行事・イベント	会場・場所	関連団体
4月	こいのぼりの掲揚	清田橋付近	NPO 法人あしりべつ川の会
5月	桜ウォーキング・花見会	あしりべつ桜並木通り (旧国道 36 号)	桜ウォーキング実行委員会
	パークゴルフコースが オープン	高木橋～厚別橋	NPO 法人あしりべつ川の会
	ヤマメの稚魚放流	北野ふれあい橋付近	北野地区町内会連合会 (北野地区青少年育成委員会)
6月	草刈り・清掃美化活動	柳瀬橋～清田橋	NPO 法人あしりべつ川の会 北野地区町内会連合会 周辺単位町内会 清田区災害防止協力会 など
		清田緑地周辺	清田地区住みよい安心安全なま ちづくり協議会
7月	北野ふれあい夏祭り (花火)	北野ふれあい橋	北野地区町内会連合会
	川沿いのラベンダーが開花	厚別橋～清田橋	
8月	あしりべつ川体験塾	清田橋付近	清田区地域振興課 協力：NPO 法人あしりべつ川の 会、札幌国際大学、札幌市子ども 会育成連合会清田区支部 など
9月	あしりべつ桜並木通りの花 壇(清掃、美化活動)	あしりべつ桜並木通り (旧国道 36 号)	旧国道 36 号魅力アップワークシ ョップメンバー、コカ・コーラ、 清田小

(2) あしりべつ川の課題

あしりべつ川の利活用を促進することは、清田区の歴史を知り、清田区への愛着を深めるためのまちづくりにつながる。しかし、あしりべつ川の利用者は少なく、あしりべつ川の持つ魅力が十分に活かされていないといった課題がある。

そこで、清田区のシンボルにふさわしく、さらに多くの区民にあしりべつ川に親しんで利用してもらう水辺空間にするため、利活用を促す整備やソフトの充実が求められている。

●利用を促す拠点の整備

現在、あしりべつ川は、パークゴルフや散策、サイクリングなどに利用されている。しかし、トイレや水飲み場などもなく、利活用の中心となる拠点が無い。利活用を進めるためにも拠点を整備することが必要である。

●あしりべつ川の魅力を活かす親水空間の確保

あしりべつ川は流速が早いため、子供などが水に親しめる場所は、清田橋付近と、階段護岸が整備された北野ふれあい橋付近に限られている。

ヤマメをはじめとした川の生物と子供たちが接することができるように、安全に考慮しながら親水空間を確保することが求められる。

一方、ヤマメの稚魚の価格が高騰しており、これまで30年ほど行われているヤマメの放流の開催が難しくなってきたという課題もある。

●バーベキューなどの利用ニーズへの対応

バーベキューなどの利用ニーズがあると考えられる。しかし、バーベキューの利用は、ゴミやマナーの問題がある。このため、周辺住民や警察などと協議しながら体制づくりも含めて検討することが求められる。

●散策路の延長

清田橋より上流の区間には、散策路が整備されていない。清田区のシンボルとして区民に親しんでもらうためには、清田橋より上流でも散策路の整備が求められる。

●治水上の課題

大雨や洪水の際に水かさが高水敷まであがり、花壇やパークゴルフ場が流されたり流木が散乱しているため、災害時の対応を検討する必要がある。

また、繁茂しすぎている河畔林は、災害時に流木となり下流に被害を与える恐れがあるため、間引きするなどの維持管理が求められる。

●サクラの伝染病の課題

近年、あしりべつ川周辺のサクラで、サクラこぶ病が流行している。全体としての被害は少なく、症状のひどいサクラは切るなどの対処をしている。サクラこぶ病に感染しない樹種について研究が進められており、将来的にはそうしたサクラを植えていくことが求められる。

2章 あしりべつ川の基本方針

あしりべつ川の活用と整備の基本方針は、あしりべつ川の特性や現況、利活用の状況、清田区のまちづくりとの関係などから以下の3つとする。

あしりべつ川の基本方針

- ①多くの区民が訪れる憩いの場
- ②水とみどり、彩り（花）を感じる空間
- ③生態系に配慮した空間

①多くの区民が訪れる憩いの場

あしりべつ川は、清田区の地形をつくりだし、かつて清田区に広がっていた水田と関わりのあった清田区のシンボルである。

そこで、あしりべつ川の持つ自然環境や連続する空間という特性を活かして、清田区民が集い、憩う水辺空間となるように活用する。

具体的には、散歩やジョギング、サイクリング、パークゴルフなどの場として活用する。

②水とみどり、彩り（花）を感じる空間

あしりべつ川では、地域の人たちによってサクラや花が植えられている。

こうした活動にさらに多くの区民が参加して、活動が継続され、あしりべつ川を水とみどり、彩り（花）のネットワークの軸となるようにする。

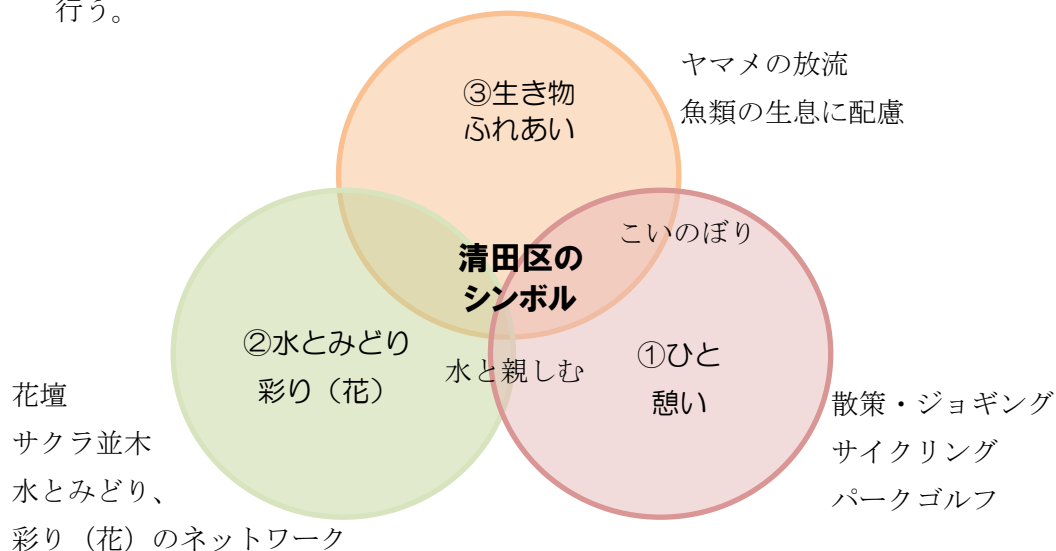
具体的には、区民によりサクラ並木の形成や花を植える活動を行うほか、水とみどり、彩り（花）の空間にするために、河畔林を治水上問題ないように保全する。

③生態系に配慮した空間

あしりべつ川では、ヤマメの放流が行われているほか、多くの魚類や生物が生息している。

こうした生物の生息環境に配慮しながら、区民の憩いの場となるようにする。

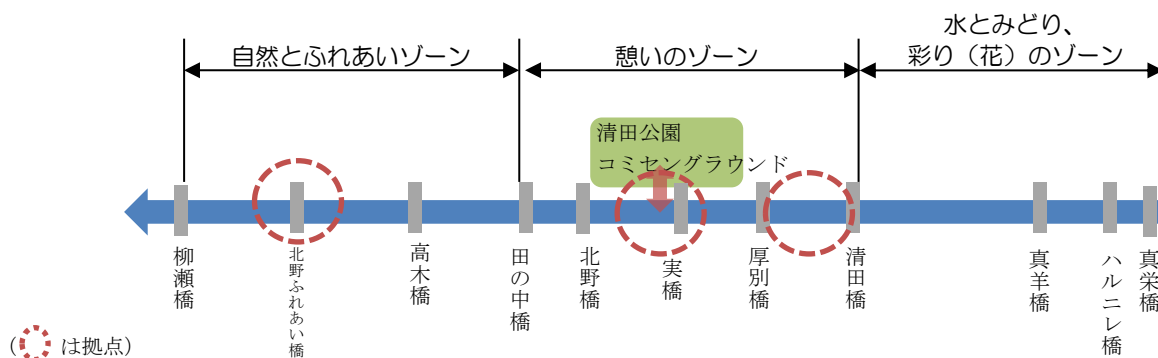
また、豊かな自然環境を清田区の子供たちに知ってもらうために、環境教育を積極的に行う。



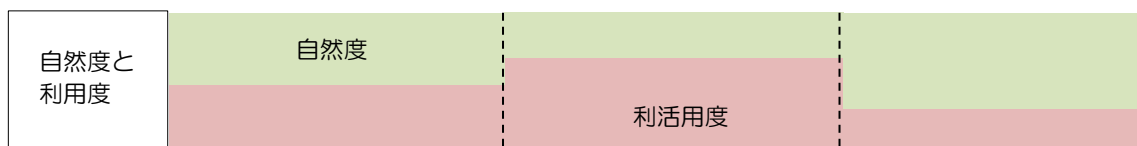
3章 あしりべつ川の将来イメージ（利活用と整備）

1. ゾーニング

あしりべつ川の活用は、河川空間、沿川の土地利用、現在の利活用状況から以下の3つのゾーンに分けて進める。



	自然とふれあいゾーン	憩いのゾーン	水とみどり、彩り(花)のゾーン
特徴	・河川空間が持つ連続性を活かし、散策やパークゴルフなどの利活用を進める。	・沿川の清田公園などと一体的になった、拠点性の高い利活用空間にする。 ・清田区のシンボリックな空間になるように整備する。	・高水敷のない単断面の河川空間であることから、散策などを中心とした利活用を進める。
利用	・散策 ・サイクリング ・ジョギング ・パークゴルフ	・散策 ・サイクリング ・ジョギング ・パークゴルフ ・釣り	・散策 ・サイクリング ・ジョギング
拠点	北野ふれあい橋周辺 ・夏祭り(花火) ・川の体験 ・ヤマメの放流 ・バーベキュー	清田公園と接する区間 ・環境教育(公園と連動) ・マラソン大会 ・歩くスキー ・休憩(四阿・ベンチ) 厚別橋～清田橋 ・川の体験 ・釣り ・バーベキュー	
水とみどり、彩り(花)のネットワーク	・比較的広い河川敷地を活かして、堤内側にサクラ並木を育成する。 ・沿川の町内会の協力を得て、花を植える。 ・河川敷地に余裕のあるところに植栽を行う。 ・区民参加により、花(野草)などを植えて彩りのある空間とする。		・沿川の町内会などの協力を得て花を植える。



2. ゾーンごとの将来イメージ

(1) 自然とふれあいゾーン（柳瀬橋～北野ふれあい橋～田の中橋）

【特性】

- ・パークゴルフコースがあるほか、住民によって樹木が植えられるなど、住民とあしりべつ川のふれあいが多き区間である。
- ・また、北野ふれあい橋の上下流には、階段護岸が整備され、ヤマメの放流が行われており、あしりべつ川の親水活動拠点となっている。

【基本的考え方】

- ・こうした特性を考慮して、この区間をあしりべつ川の持つ自然環境にふれあいながら、区民の憩いや親水活動の場となるようにする。
- ・比較的ゆとりのある堤内側（まち側）の河川敷地を活かして積極的に植栽を行い、水とみどり、彩り（花）の空間づくりを進める。
- ・このゾーンは河畔林が多く繁茂していることから、治水上の安全性に配慮して、適正な河畔林の維持管理を行う。

● 拠点～北野ふれあい橋周辺のイメージ

- ・「北野ふれあい橋周辺」を、拠点と位置付ける。
- ・階段護岸が整備されていることや、ヤマメの放流が行われていることから、子供たちが川にふれ合うことができる場として位置づける。
- ・あしりべつ川は流れが速く、子供たちが安全に水辺に近づくことは難しいため、安全に川を訪れることができるよう配慮する。
- ・水道施設の設置やベンチなどの休憩施設を配置する。
- ・バーベキューへのニーズは高いが、実施にはゴミやトイレ、水道施設、駐車場などの条件整理が必要である。
- ・将来的には、沿川住民や河川管理者などと協議を行い、体制を整えて、バーベキューなどができるよう検討する。

■ 北野ふれあい橋周辺のイメージ



●河畔林のイメージ

- ・治水上影響がないように十分配慮しつつ、魚類の生息にも配慮して、河畔林を保全する。
- ・ただし、高水敷でパークゴルフや散策を楽しむ人たちが、あしりべつ川を意識できるように、部分的に河畔林を少なくするなどして水辺が見えるようにする。

●高水敷のイメージ

- ・高水敷は、パークゴルフコースと散策路が整備されていることから、引き続きパークゴルフと散策空間として利用する。
- ・一部に花壇などが設置されているが、維持管理の容易性を考えて水辺で見られる野草などを植えることも検討し、彩りある空間にする。

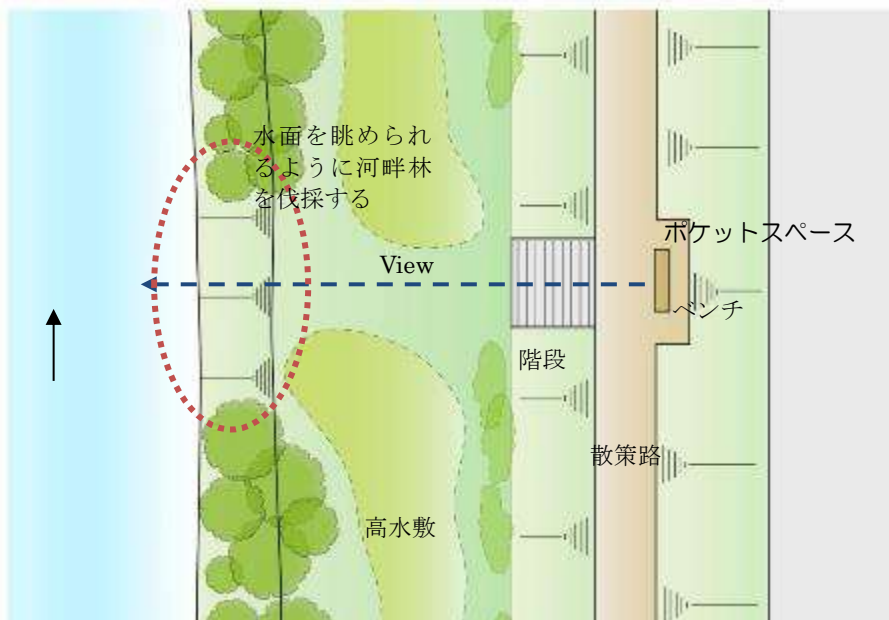
●散策路と休憩施設

- ・堤防には散策路（管理用通路）が整備されており、ジョギングやサイクリングに利用されている。また、車いすでの利用も見られる。
- ・このため、引き続き、散策やジョギング、サイクリングに利用できるようにする。
- ・河川敷地が広い場所には、散策路沿いにポケットスペースを設け、休憩しながらあしりべつ川を眺めることができるようにする。

●植栽

- ・サクラや花の植栽と維持管理を行い、水とみどり、彩り（花）のネットワークをつくるようにする。

■休憩のできるポケットスペース付近の平面イメージ



■断面イメージ



(2) 憩いのゾーン（田の中橋～清田橋）

【特性】

- ・パークゴルフコースがある。
- ・沿川には清田高校や北野中学校があり、学生が多く集まる。
- ・右岸には、清田公園やコミセングラウンド、清田区民センター、清田緑地があり、清田区のシンボリックなゾーンである。
- ・厚別橋と清田橋の間は、河畔林もなく高水敷から川を眺められる区間であり、区民がくつろいでいる姿も見られる。

【基本的考え方】

- ・右岸のコミセングラウンドや清田公園があしりべつ川の利活用の拠点になることから、憩いのゾーンは、現在のこうした施設と一体的に考えることを基本とする
- ・また、歴史的なまちづくりが進められている旧道とも交差しており、こうしたまちづくりとの連携にも考慮する。
- ・田の中橋から清田橋の区間は、清田区のシンボリックなゾーンとなるように花やサクラなどを植え、四季折々の表情を演出する。

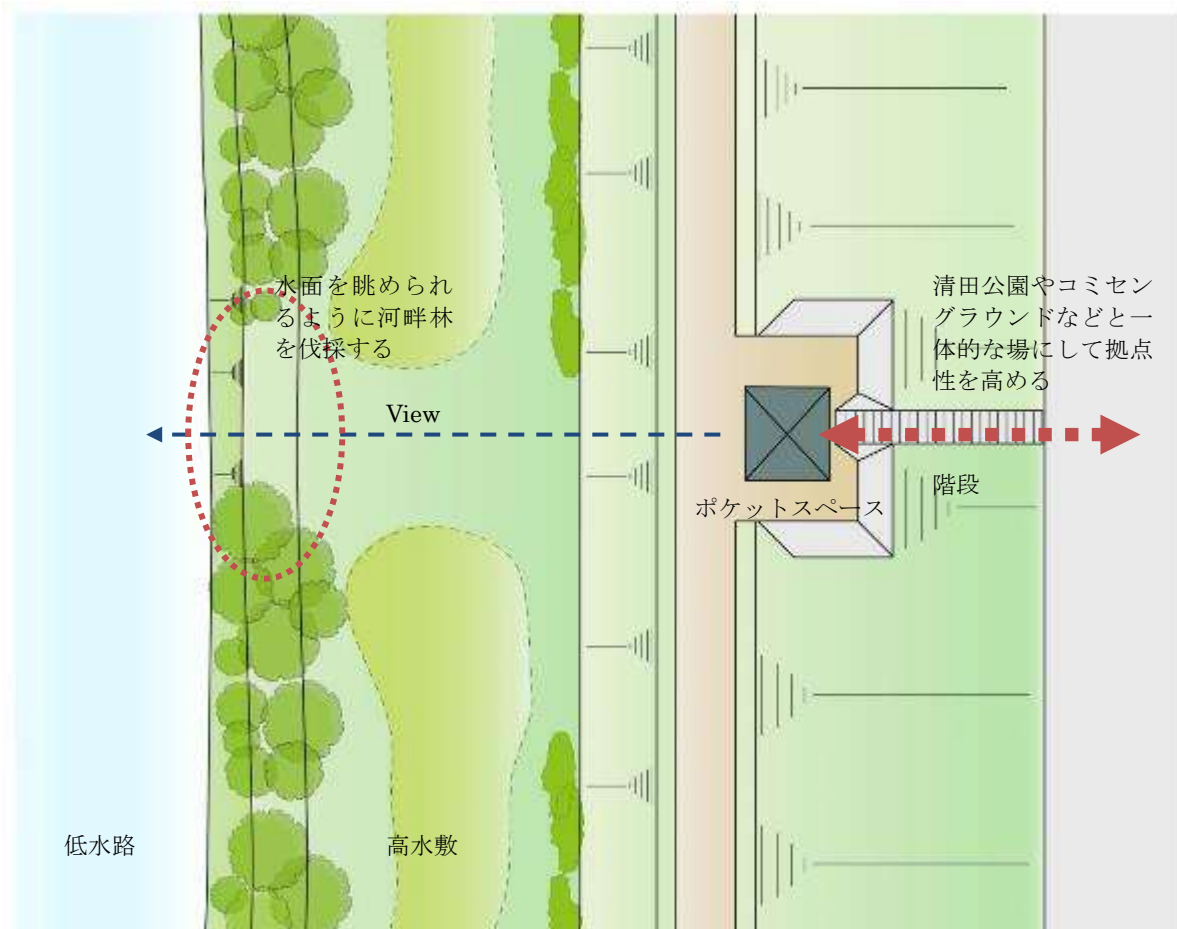
●拠点～清田公園・コミセングラウンドと接する場所

- ・清田公園やコミセングラウンドと接する場所に、スロープや階段などを設け、一体的な空間となるようにして、あしりべつ川に多くの区民が訪れるようにする。
- ・駐車場があれば、さらに多くの区民が利用できるため、清田公園やコミセングラウンドと一体的に考えていく必要がある。
- ・一体的にすることで、あしりべつ川にパークゴルフで訪れた人が清田公園で休んだり、清田公園にスポーツを楽しむために訪れた人があしりべつ川を散策したりできるようにして、多様な活動ができる場所にする。
- ・散策路の一部を拡幅するなどして、あしりべつ川と清田公園、コミセングラウンドを眺められるポケットスペースを設ける。

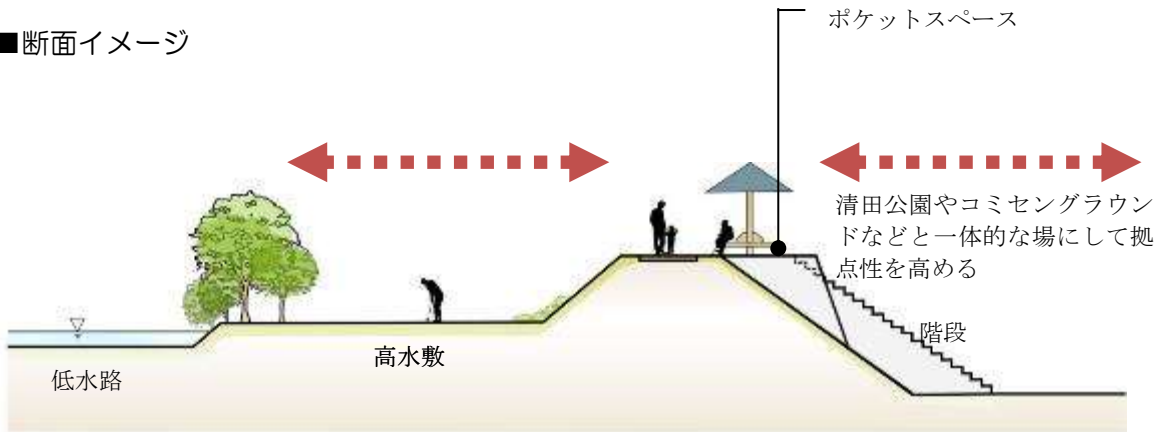
●拠点～厚別橋から清田橋

- ・厚別橋と清田橋の間では、区民が高水敷で休んでいる姿や子供が釣りをしている姿が見られる。水辺にも近づくことができ、水辺の魅力を感じる貴重な場所である。
- ・そこで、この区間は水辺の魅力をさらに感じることができるよう、ベンチなどを設けたり、散策路の充実を図るようになる。
- ・バーベキューへのニーズは高いが、実施にはゴミやトイレ、水道施設、駐車場などの条件整理が必要である。
- ・将来的には、沿川住民や河川管理者などと協議を行い、体制を整えて、バーベキューなどができるよう検討する。
- ・引き続き、子供を対象にした「あしりべつ川体験塾」を開催するなどして、環境教育と合わせて川の体験をしてもらうようにする。

■清田公園・コミセングラウンドと接する場所の平面イメージ



■断面イメージ



■清田公園・コミセングラウンドと接する場所のイメージ



- 河畔林のイメージ (内容は 13 ページ 2-(1)「自然とふれあいゾーン」と同じ)
 - ・ 治水上影響がないように十分配慮しつつ、魚類の生息にも配慮して、河畔林を保全する。
 - ・ ただし、高水敷でパークゴルフや散策を楽しむ人たちが、あしりべつ川を意識できるように、部分的に河畔林を少なくするなどして水辺が見えるようにする。
- 高水敷のイメージ (内容は 13 ページ 2-(1)「自然とふれあいゾーン」と同じ)
 - ・ 高水敷は、パークゴルフコースと散策路が整備されていることから、引き続きパークゴルフと散策空間として利用する。
 - ・ 一部に花壇などが設置されているが、維持管理の容易性を考えて水辺で見られる野草などを植えることも検討し、彩りある空間にする。
- 散策路と休憩施設 (内容は 13 ページ 2-(1)「自然とふれあいゾーン」と同じ)
 - ・ 堤防には散策路（管理用通路）が整備されており、ジョギングやサイクリングに利用されている。また、車いすでの利用も見られる。
 - ・ このため、引き続き、散策やジョギング、サイクリングに利用できるようにする。
 - ・ 河川敷地が広い場所には、散策路沿いにポケットスペースを設け、休憩しながらあしりべつ川を眺めることができるようにする。
- 植栽 (内容は 13 ページ 2-(1)「自然とふれあいゾーン」と同じ)
 - ・ サクラや花の植栽と維持管理を行い、水とみどり、彩り（花）のネットワークをつくるようにする。



川沿いの休憩施設のイメージ



川沿いの休憩施設のイメージ

(3) 水とみどり、彩り（花）のゾーン（清田橋～上流部）

【基本的考え方】

- ・現在は、活用があまり見られない上流の区間であるが、将来的に管理用通路を活かして散策路を整備して、沿川の区民などが日常的に水とみどり、彩り（花）を感じる空間にする。
- ・また、道路と河川敷地が隣接している真羊橋下流の右岸などでは、道路の歩道空間と水辺が一体的になるように整備し、身近にあしりべつ川を感じることができるようにする。
- ・河川敷地に余裕のある区間や場所では、沿川の住民の理解と協力を得ながら植栽を行い、水とみどり、彩り（花）のネットワークをつくる。

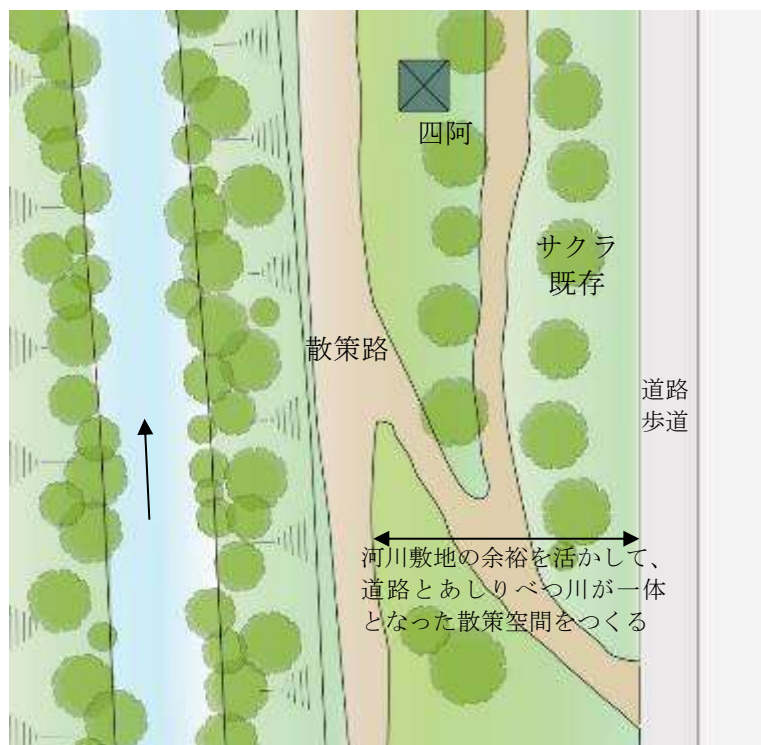
●散策路と休憩施設の整備

- ・将来的には、下流から上流まで連続して散策できるように整備し、区民などが日常的に水とみどり、彩り（花）を感じる空間にする。
- ・緑地になると公園事業としての整備の可能性がある。
- ・河川敷地に余裕のある場所には、ベンチや四阿などを配置して、散策に適した空間にする。

●植栽

- ・河川敷地などを考慮しながら、サクラなどの植栽を検討し、水とみどり、彩り（花）のネットワークをつくるようにする。

■真羊橋下流の右岸の平面イメージ



■真羊橋下流の右岸イメージ



3. ネットワーク計画

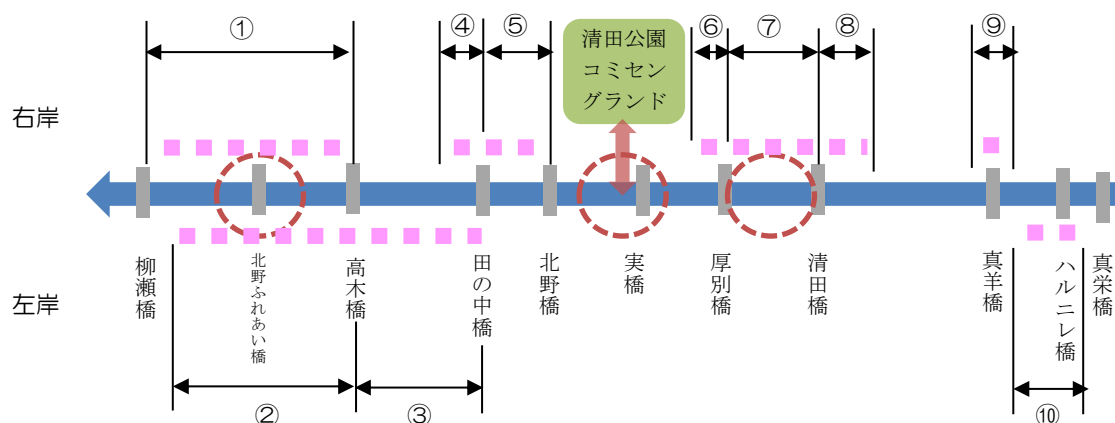
あしりべつ川は、清田区内を流れる河川であり河川空間が持つ連続性を活かして「水とみどり、彩り（花）」、「散策路」のネットワークを形成する。

(1) 水とみどり、彩り（花）のネットワーク

1) サクラ並木のネットワークの形成

あしりべつ川では、以下の区間でサクラ並木事業などによってサクラなどが植栽されている。

今後も、清田ライオンズクラブや沿川の住民の協力を得ながら植栽を進め、上流部まで水とみどり、彩り（花）のネットワークを形成する。



■サクラの植栽の状況

	区間	左岸	右岸	占用許可
①	柳瀬橋～高木橋		○	昭和 60 年、平成 13 年補植
②	柳瀬橋上流落差工～高木橋	○		平成 21 年
③	高木橋～田の中橋	○		昭和 63 年
④	田の中橋下流の右岸樋門～田の中橋		○	平成元年
⑤	田の中橋～北野橋		○	平成 16 年
⑥	厚別橋下流～厚別橋		○	昭和 60 年
⑦	厚別橋～清田橋		○	平成 15 年
⑧	清田橋～真栄 1 条 1 丁目		○	平成 18 年
⑨	真栄 3 条 2 丁目～真栄春通公園		○	平成 10 年
⑩	真羊橋上流～真栄 5 条 1 丁目	○		平成 4 年

2) 花のネットワークの形成

あしりべつ川には、沿川の町内会などによって花が植えられている。

また、清田区では、区民によるガーデニングが広がりを見せている。

こうしたことから、引き続き、町内会や区民の手で花を植え、清田区のシンボルにふさわしい彩りのある空間にする。

花は日常的な水やりなどもあることから、維持管理の容易性なども考えて野草などを植えることも検討する。

さらに、種や苗を確保するために、区民から寄附などを募ることも検討していきながら、彩り（花）のネットワークをつくる。



野草のイメージ

(2) 散策路のネットワーク

柳瀬橋から清田橋までの区間は、散策路（管理用通路）が整備されており、散策などの活用ができるようになっている。

しかし、清田橋から上流部については、管理用通路があるものの散策路としては整備されていない。

将来的には、清田橋から上流部についても散策路を整備し、白旗山までつながるような清田区のシンボルネットワークを形成する。

散策路沿いには、ベンチや四阿を設置して、散策しやすい環境を整えるものとする。

また、ジョギングの利用者などを考えて、清田区の歴史やあしりべつ川の紹介とともにキロポストを設置する。さらには、白石サイクリングロードとの連続やマラソン大会の可能性を探る。



川沿いの散策路と植栽（愛宕新川）



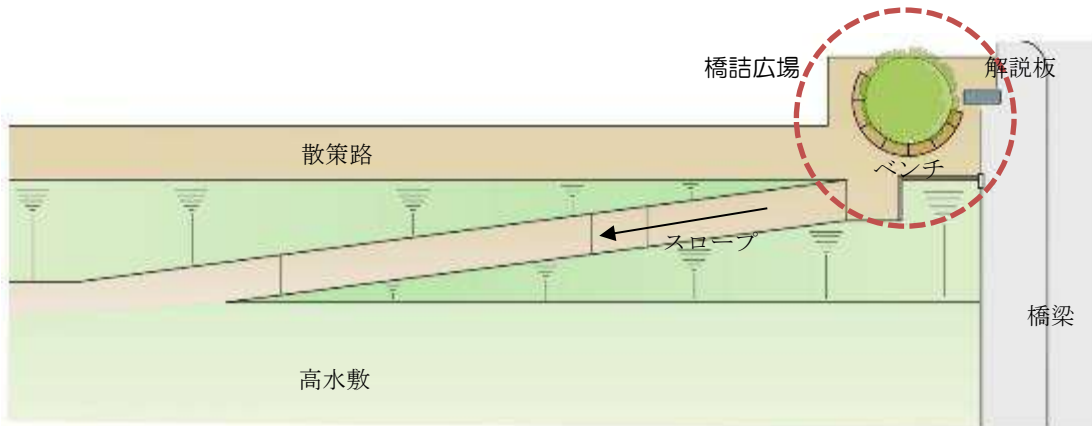
川沿いの散策路キロポスト

(3) 橋詰広場の設置

あしりべつ川の利用を促すために、田の中橋や厚別橋には橋詰広場を設ける。

橋詰広場には、あしりべつ川と清田区の歴史、あしりべつ川の自然環境などを説明した解説板などを設置する。

■ 橋詰広場のイメージ



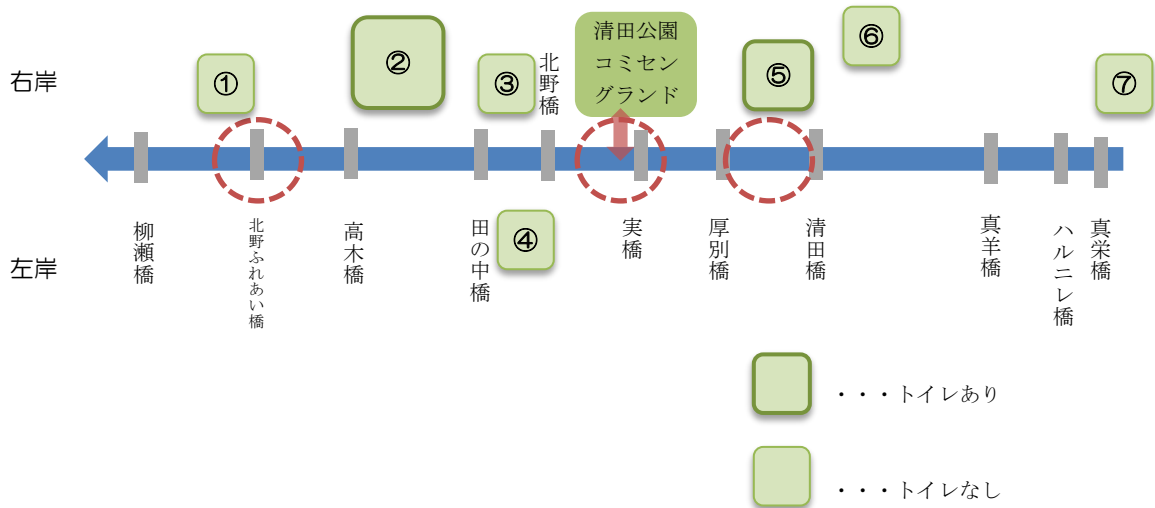
解説板のイメージ



ベンチのイメージ

(4) 公園のネットワーク

あしりべつ川には、清田公園の他に以下の7つの公園が隣接している。今後これらの公園の改修の際には、トイレや水飲台、休養施設など、河川と連携したスペースに整備していくことを検討し、より利用しやすい環境とする。



■あしりべつ川に隣接する公園一覧

	公園名	トイレ	水飲台	休養施設	その他
①	北野よつば公園	×	×	ベンチ	
②	北野中央公園	○	○	四阿	野球場、テニスコート、バスケットコート
③	北野第三パンダ公園	×	×	ベンチ	
④	北野あすなる公園	×	×	×	
⑤	清田せせらぎ公園	○	○	四阿	
⑥	真栄わんぱく公園	×	○	四阿	
⑦	真栄せせらぎ公園	×	○	四阿	



②北野中央公園



⑤清田せせらぎ公園

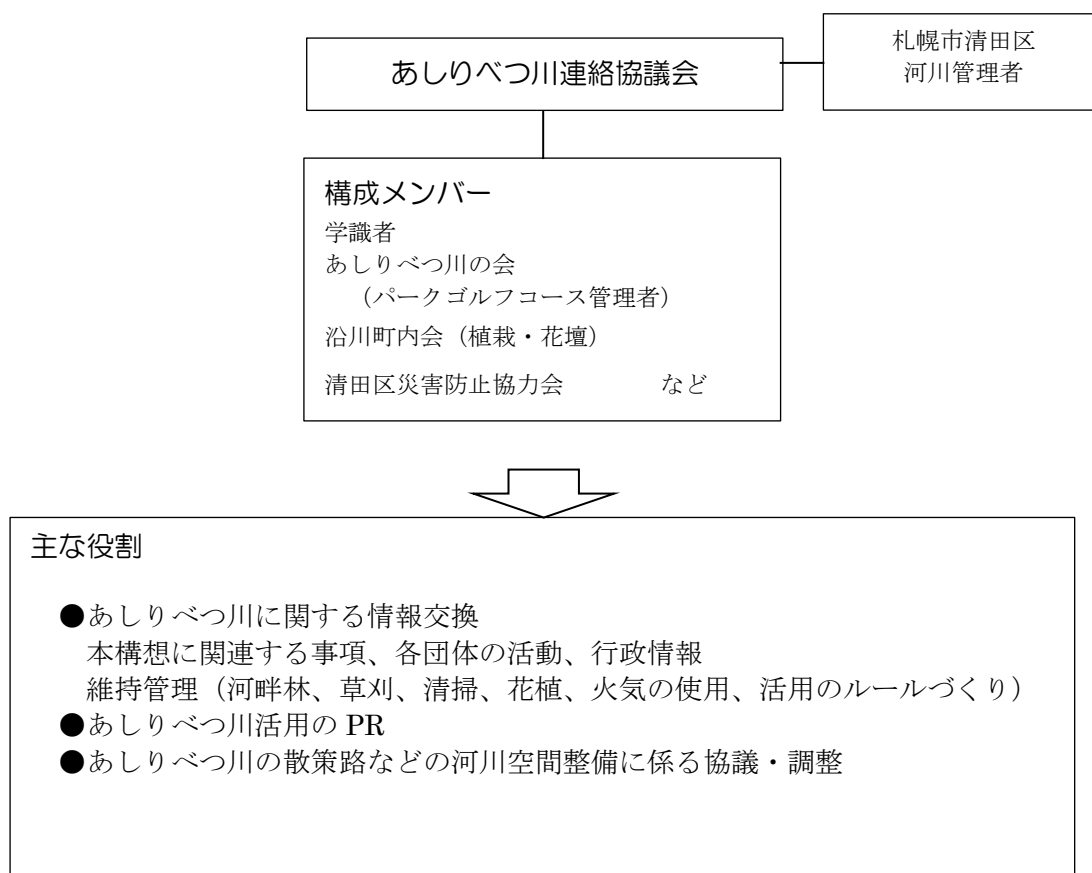
4章 あしりべつ川の維持管理の考え方と体制

あしりべつ川は、川の会によるパークゴルフコースの管理や沿川町内会による清掃活動、地域住民による堤防沿いの植栽や花壇の設置、ヤマメの放流などが行われている。

各団体の活動には、それぞれの経緯や活動の意義、スタイルがあることから、個別の活動を最大限に尊重する。

ただし、治水上の安全確保などについて連携することも必要である。

そのうえで、以下に示すような連携体制を整え、利活用を進めることが求められる。



5章 参考資料

1. あしりべつ川の概要

(1) あしりべつ川（厚別川）の概要

厚別川は南区南部の空沼岳（1,249m）を源とし、滝野すずらん丘陵公園のアシリベツの滝を経て清田区に入る、流路延長 41.7km、流域面積 182.4km²の豊平川最大支流であると同時に、札幌第2の川でもある。

空沼岳から流れ、真駒内ゴルフ場とアシリベツゴルフ場に挟まれた凹地はやや穏やかに流れている。滝野に入ると様相が変わり谷幅が狭く峡谷となり、滝野すずらん丘陵公園内にはアシリベツの滝、不老の滝、白帆の滝、鱒見の滝の4つの滝が見られる。

その下流の上三滝橋に至ると流速が最も早くなり、大礫や中礫がほとんどで所々に巨礫が見られる。

そして、上三滝から白旗山の山裾の溪流から谷あいの原生林を東に下り、氾濫原を広げつつ穏やかな流れになり、畑作地帯の有明地区を通る。

白旗山北西部に源流を持つ山部川との合流地点からは市街地が増え、右岸が真栄地区、左岸が清田地区となる。国道 36 号線と交差するあたりで清田川と合流する。

国道 36 号以降の下流では散策路（管理用通路）が整備され、北野地区の丘陵地帯を緩やかに蛇行しつつ、清田区と白石区の境界の柳瀬橋までが「あしりべつ川」とされている。

■清田区を流れるあしりべつ川



(2) 「あしりべつ川」の呼び名の由来

厚別川という名については、古地図や古い記録では、アシウシベツ、アシベツ、ハシベツ、ハシウシベツ等とさまざまな表記がある。

山田秀三氏によると「アシベツの音が和人の東北弁のなまりでアチベツ、アツベツとなり、厚別の文字が当てられたのではないか」と言われている。

清田のまわりは昔からアシリベツと呼ばれていた。アイヌ語でアシリ・ペツ「新しい川」の意味で、洪水などで川筋が変わると「フシコ・ペツ」と呼ばれていたことから、清田付近で大きく川筋が変わったためにこのように呼ばれたのではないかとされている。

そのほか、ハシ・ペツ（雑木林・灌木を流れる川）、アッ・ペツ（オヒョウダモの木の間、または魚のとれる豊かな川）などの説もある。

(3) あしりべつ川と清田区の歴史

●あしりべつ川と清田区の地形

清田区の地形とあしりべつ川は深く関係があり、あしりべつ川（厚別川）が火山灰台地を削り、清田区の河岸段丘地形が形成されている。

清田区の段丘は、高い所では標高 200～300 メートルほどの高さがあり、この谷地の底の平地部分が有明地区、真栄地区であり、左岸が清田地区や北野地区、右岸が平岡地区となっている。

●あしりべつ川と水田

清田区は、水田地帯で美田が多かったため、清田とよばれるようになった。清田区の水田は、あしりべつ川があることによって拓かれたものである。

1877 年（明治 10 年）にアシリベツ（現在の清田小学校付近）で札幌では初めての水田が拓かれた。しかし、厚別川の水は冷たすぎて稲は育たず、春に蒔いた種籾を回収するのがやっとだったと言われている。

1891 年（明治 24）に吉田善太郎（よしだ ぜんたろう）らがあしりべつ川からの用水路を建設し、水温を上げて水田に水を引き込むことでようやく収穫が安定した。

上流の有明付近は、1890 年（明治 23）篠路屯田兵給与地として開拓され、上流にも水田地帯が広がっていった。

その後、稲作技術の改良も進み、あしりべつ川の周辺には水田が広がった。

水田が広がっていた頃の面影を残すものとして、清田高校のそばにある「田の中橋」などがある。

2. あしりべつ川の現況

あしりべつ川の現況を下流から上流に区間ごとに整理すると以下の通りである。

●柳瀬橋～北野ふれあい橋～高木橋

柳瀬橋～北野ふれあい橋の区間は、水際にはヤナギなどが繁茂しており、高水敷からは水辺に近づきにくい。

北野のふれあい橋の上下流には、階段護岸が整備されており、水辺に近づくことができるようになっている。

また、スロープも設けられており、車いすや自転車、車でも高水敷に降りることができる場所であり、あしりべつ川の拠点となっている。左岸の堤防の法面（堤内側）には、余裕のある河川敷地を活かしてサクラなどの樹木が植えられているほか、花なども植えられている。



ふれあい橋から上流側

●高木橋～田の中橋

高水敷にはパークゴルフコースが整備されている。水際にはヤナギなどが繁茂しており、高水敷からは水辺に近づくことはできない。右岸は、丘陵地の住宅地となっている。左岸は平坦な住宅地が広がっている。

左岸の堤防の法面（堤内側）には、余裕のある河川敷地を活かしてサクラなどの樹木が植えられているほか、花なども植えられている。



田の中橋から下流右岸

●田の中橋～北野橋

高水敷にはパークゴルフコースが整備されている。水際にはヤナギなどが繁茂しており、高水敷からは水辺に近づくことはできない。右岸は、清田高校と接する。左岸は、住宅地となっている。



田の中橋から上流右岸

●北野橋～厚別橋

高水敷にはパークゴルフコースが整備されており、パークゴルフを楽しむ人の姿が多い。

また、北野橋の上流の右岸には、清田区民センターがあるほか、清田公園やコミセングラウンドと接しており、清田区のシンボリックな区間でもある。



実橋から下流側左岸

●厚別橋～清田橋

あしりべつ川が高水敷のある複断面から単断面に変わる区間で、落差工がある。

右岸には散策路も整備されているほか、河道内には樹木が少なく、高水敷から水辺を見ることができるため、高水敷で休んでいる人の姿などが見られ、拠点のひとつとなっている。



厚別橋より上流側

●清田橋～真羊橋

右岸は、住宅地となっている。

左岸には、農地が残っていたが、近年開発が行われて大型店等が建設された。

真羊橋の下流の右岸は、道道 341 号真駒内御料札幌線に接しており道路の歩道空間と一体となった整備が行われ、サクラなどが植栽されている。



真羊橋より下流右岸

●真羊橋～真栄橋

真羊橋より上流は住宅地の間を縫うように川が流れている。散策路の幅はとても狭く、住宅に隣接しているが、サクラや花などが植栽されている。



真羊橋～真栄橋の左岸

●真栄橋～

あしりべつ川の周辺は平坦な農地となっており、左岸の一部の区間は白旗山に接する。散策路などもなく利用者も少ないが、近くの田園の中にあるお蕎麦屋やジェラートのお店には訪れる人が多い。



真栄橋より上流側

3. 札幌市におけるあしりべつ川の位置づけ

(1) 札幌市みどりの基本計画（平成24年）での位置づけ

「札幌市みどりの基本計画」では、これからの時代に向け、環境保全、防災、景観形成、レクリエーションといったみどりが持つさまざまな機能を十分発揮させるとともに、長期的なみどりの将来像を見据えながら、その保全・創出を進めていく際の次代のみどり豊かな札幌のまちづくりの総合的な指針が示されている。

あしりべつ川（厚別川）は、みどりの基本計画で「水を中心としたみどりのネットワーク」の軸として示されており、あしりべつ川を中心としたみどりの連続した空間をつくりだすことが位置づけられている。（下図参照）



【骨格的なみどりのネットワーク】

- 環状グリーンベルト
- コリドー
- 水を中心としたみどりのネットワーク
- 街路を中心としたみどりのネットワーク
- 山地丘陵地のみどり(里山)
- 平地のみどり(里地)

行政界

【重点的にみどりの充実を図るエリア】

- 部心部
- みどり豊かな市街地

【拠点となるみどり】

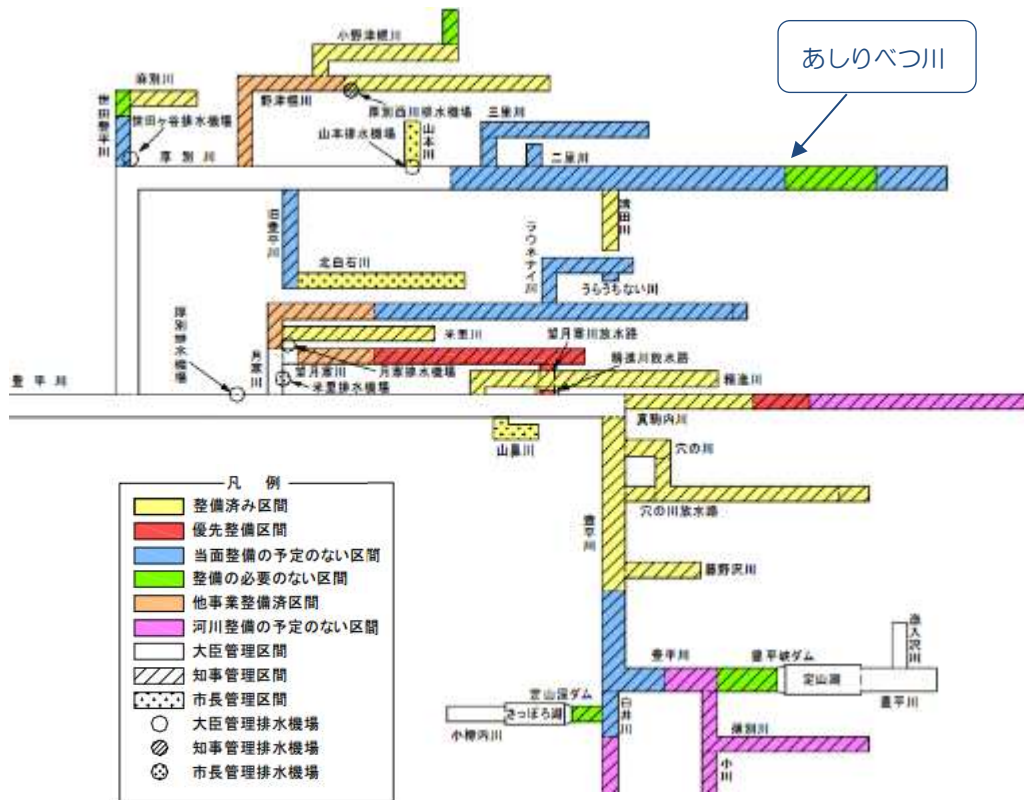
- 公園などの拠点となるみどり

(2) 石狩川下流札幌圏域 河川整備計画（平成23年）での位置づけ

「石狩川下流札幌圏域（豊平川地区）河川整備計画」では、河川改修、水害発生の状況、河川利用の現況、河川環境の現状などを考慮し、整備に当たっての目標を明確にして、河川環境に配慮した治水対策を推進することを基本方針としている。

あしりべつ川（厚別川）は平成23年現在、「当面整備の予定のない区間」、「整備の必要のない区間」とされている。（下図参照）

■河川整備の現況及び優先整備区間概略図



(3) 札幌市河川環境指針（平成21年）での位置づけ

「札幌市河川環境指針」では、札幌市が目指す川の姿の実現に向け、「川を『つくる』から川と『共に生きる』」を基本とし、これを具体的にするために、「自然」「人」「まち」の視点から今後の川づくりを進めていくことを基本方針としている。

札幌市が目指す川の姿

～札幌の川文化の創造～

- ・札幌の豊かな自然を五感で感じることのできる川
- ・子どもたちの遊ぶ声が聞こえる川
- ・魚など生き物がいる川
- ・市民が自分たちの財産として大切にできる川
- ・美しいまちの風景をつくる川

基本方針

川を「つくる」から川と「共に生きる」へ

基本方針1【自然と川づくり】

札幌の自然環境・地形・水文特性を考え、川を育む

基本方針2【川と人】

川に親しみ、川と人の関係を育む

基本方針3【川とまちづくり】

豊かな川の風景のあるまちを育む

